

◎教育センターの経費

相談室事業	【 教育センター 】
-------	------------

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

学校教育:子どもたちの豊かな人間性や生きる力をはぐくめる教育が実現しているまち

【事業の目的】

対象 幼児から青少年までの本人とその保護者等

意図 いじめや不登校・ひきこもりに悩む児童生徒とその保護者に対し、適切なカウンセリングと教育支援を行い、また、青少年の非行・問題行動の早期発見とその指導を行うため。

効果 いじめや不登校・ひきこもりに悩む児童生徒が安心して学校に復帰し、社会生活を行えるようにするとともに、青少年の非行・問題行動への取組みを図る。

【事業の内容】

- (1) 相談室事業
 - ・教育センターの維持管理を行った。
- (2) 相談指導事業
 - ・電話・面接・訪問による相談業務を実施した。
 - ・各中学校区を中心に市内のパトロールを行った。
- (3) 教育支援教室事業
 - ・通室指導・学習支援・進路指導等を実施した。

【中事業に含まれる実施計画事業】

不登校・ひきこもりの対策(4-2-2-④)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
18,591	18,591	17,888		703
主な支出内訳				
・ 相談室事業				
教育センター相談室維持管理委託料				263
・ 相談指導事業				
教育相談指導員(訪問指導員)報酬 1人				1,248
教育センター教育相談指導員報酬 5人				6,225
教育センター街頭指導員報酬 12人				300
心のふれあい相談員謝礼				1,640
教育センタースーパーバイザー謝礼				240
メンタルフレンド謝礼				30
・ 教育支援教室事業				
教育支援教室教育相談指導員報酬 4人				5,915

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 教総-28 相談室事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	1067 1184 1185 1267	運営事業 相談指導事業 適応指導事業 相談指導事業				
主管課	教育センター		関連課				
分野名	学校教育						
目標 (目標値)	いじめ、不登校、ひきこもり等の問題解決に向けて、対象者個々のもつ問題に対しての相談体制、支援体制の充実を図る。相談者にとってより満足度の得られる相談体制の充実。他機関と連携した問題解決への支援体制の確立・充実を目指す。						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	17,888千円	18,393千円	17,361千円			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)						
	人員配置数	3.0人	3.0人	3.0人			
	人 件 費	29,867千円	29,626千円	29,369千円			
協働の パートナー	教育センターボランティア	教育センターボランティア	教育センターボランティア				
事務事業 運営経費	総事業費	47,755千円	48,019千円	47,978千円	「対象者1人当りの経費」欄 には、相談1件当りの経費 を記載。 (参考:18・19年度も記載)		
	市民1人当 りの経費	271円	273円	274円			
	対象者1人 当りの経費	22,336円	22,844円	32,000円			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※		
						※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) (1)相談件数の増加および個々の相談の持つ問題の複雑化への対応 (2)関連機関との情報共有、チーム支援体制の在り方 (3)教育支援教室「ひだまり」での支援ケースの多様化に対応する教育相談指導員の増員 (4)スーパーバイザーの配置の充実 (5)精神科医師の配置 (6)「心のふれあい相談員」の派遣日数増
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) (1)(2)について ①継続的かつ連携支援を要する事例について、学校をはじめ関連機関と定期的なチーム支援会議を開催したり、頻回に連絡を取り合うことで、短期的・長期的な役割分担の確認および現況の情報共有を進めた。②スーパーバイザーを核に、事例検討をより多く実施できるよう、資料を含めケース会議の運営を工夫した。(3)について、相談室配置の教育相談指導員と連携を図り、教育支援教室のケース会議に参加するなど、連携の充実により個別のケースに対応した。(6)について 相談員一人当たりの時間を19年度より増やし、児童・保護者・教員との交流時間が増え相談も増加した。また、「心のふれあい相談員」の周知について、各校に依頼した。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) (1)相談数の増加と共に複雑化・多様化する問題も増えており、相談体制の充実が更に求められている。 (2)「心のふれあい相談員」の派遣日数増 (3)スーパーバイザーの配置の充実 (4)精神科医師の配置 (5)教育支援教室「ひだまり」の施設整備等
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 問題が複雑化する前の早期発見・早期支援体制の充実のため、小中学校との更なる連携・連絡、市長部局関連課かい及び諸関連機関との連携を構築していくことが、これまで以上に必要不可欠であると認識し、実際の事例でも意図的にチーム支援を図っていくよう務めていく。更に、問題の複雑化に対応していく上で、心理学的側面のスーパーバイザーの配置の充実に加え、精神医学的側面からのスーパーバイズも必要な事例が増えている事実があることから、両スーパーバイザーの配置の充実を努めたい。また、指導主事のこどもみらい部発達支援室兼務をはじめ、こどもみらい部こども相談課相談室との連携等、市としての相談・発達・教育支援体制の充実を図っていく。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	相談室への、いじめ・不登校・ひきこもりや発達障害等の相談件数は、年々増加すると共に、背景にある家族の問題も複雑化・多様化しており、相談が長期化する傾向にある。心理及び精神科医師のスーパーバイザー配置の充実等これまで以上の相談体制の充実ばかりでなく、問題解決に向けた具体的支援が実施していけるよう、ことに学校との密接で定期的な連携を中心に、市長部局関連課かい、諸関連機関との連携・協力体制整備強化を図っていく。		
担当課長氏名:	教育センター所長代理 松平光昭		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	いじめ・不登校・ひきこもり・発達障害を始めとして、心に悩みや問題を抱えている児童への相談・教育的支援は、早期発見・早期対応が大切であるが、児童支援と共に家庭支援に関しては、個々の持つ問題の周辺環境に関連するあらゆる諸機関による情報共有や役割分担のアセスメントが不可欠である。効果的かつ具体的支援が行えるよう、各事例ごとに支援ニーズを充分把握し、学校、市長部局及び関連諸機関との連携支援体制の構築に、より一層取り組んでいきたい。		
担当部名	経営企画部	部長名	宮田 茂昭